

イコモスが勧告!!
『北海道・北東北の縄文遺跡群』は
この夏、世界文化遺産登録へ

亀ヶ岡石器時代遺跡／田小屋野貝塚 世界遺産へ



上空からの亀ヶ岡石器時代遺跡



決して平坦ではなかったここまでの道のり

5月26日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産に登録するよう勧告。これにより、7月下旬の世界遺産委員会で正式に、本市の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚を含む17の縄文遺跡群は世界文化遺産に登録される見通しです。

しかし、ここまでの道のりは平坦なものではありませんでした。平成18年11月に「青森県の縄文遺跡群」の暫定リストへの記載を文化庁に提案したことからスタート。4道県で共同提案することとし、資産名称を「北海道・北東北の縄文遺跡群」に決定。ユネスコ世

界遺産委員事務局において世界遺産暫定一覧表に記載されるも、平成25年から29年まで5年連続で推薦が見送られました。ようやく平成30年に世界文化遺産推薦候補となったものの喜びも束の間、この年、政府は世界自然遺産候補をユネスコに推薦することを決定。世界文化遺産候補の縄文遺跡群のユネスコへの推薦は翌年に持ち越されました。

それでも、行政と地域住民や民間団体などが一緒になって登録に向けて活動を続け、15年近くの年月を経て、遂にこの夏、今までの努力が報われようとしています。

勧告の翌日、歓喜に沸くJR木造駅前

縄文とロマン

NPO法人つがる縄文の会では、勧告の翌日、JR木造駅前で報告会を開催しました。同会理事長の川嶋大史さんは「勧告まで長



つがる縄文の会 川嶋大史理事長

かったので、ようやくここまで来たなど皆さん大変喜んでいきます。つがる縄文の会では、遮光器土偶の故郷として、世界的な価値があることから、世界遺産になるならぬに因わず、これまで活動を続けてきました。世界遺産としての価値を認めてもらったことは、すごく励みになりますし、

誇りにも思います。そして、後世に伝え残す使命を感じています」と感想を述べました。

縄文の魅力について、「簡単に説明されないロマンがあります。遺跡は地下に眠っていて、目に見えない状態なので、それをどうやって伝えるかが重要なポイントだと思っています。すごく難しいですが、分かりやすく、ロマンを掻き立てられるような伝え方を皆さんと工夫していきたいです」と語りました。

今後の展望については、「正式に世界遺産に登録されると、多くの観光客が訪れることも想定されるので、しっかり対応できるように環境を整えていきたいです」と考えを示しました。

ボランティアガイドも満面の笑み

市の縄文遺跡のボランティアガイドを務める皆さんも喜びを分かち合いました。

山本薫さんは「今まで沢山の人が努力してきてくれたことが、やっと一つのかたちになった。来てくれた人に楽しんでもらえるように、今の私たちの生活に縄文がどのように関わっているのかを分かりやすく説明したいです」と意気込んでいました。



花岡トキさん



山本 薫さん



坂本紀子さん

「喜びの一言です。今日、ここに集まった報道関係者の数をみて、つがる市がこんなに注目されていることを改めて感じました。現代の生活に結びついている縄文文化をしっかりと後世に引き継いでいくことが私たちの役目だと思います」と感慨深げに花岡トキさん。坂本紀子さんは「勧告を受け、私たちガイドも気持ちが高まっています。この盛り上がりを下げることはなく、縄文の風をつがる市から吹かせたいです」と笑顔いっぱい話してくれました。

市は史跡の整備を進めます

4段階の評価の中で最上位に当たる「適当」との勧告が示されたことに對し、倉光市長は「関係4道県や市町、関係者、何より市民の皆さまのこれまでの取り組みが実を結んだものであり、世界遺産登録に向けた最後の大きな一歩と言えます」と喜びを語りました。

市は、今後、住民の皆さまのご理解を得ながら、史跡の公有化事業など、史跡整備に向けた取り組みを継続的に推進し、国内外からの来訪者の受け入れ態勢の充実に努めて参ります。



亀ヶ岡石器時代遺跡の隣にある縄文遺跡案内所